

学校の教育目標「自らとりくみ 輝く佐見の子」



校報

さ み

キラリ

佐見小学校ホームページ <http://samisyo.town.shirakawa.gifu.jp>

白川町立佐見小学校  
校長 佐伯 好洋  
平成29年度 校報  
12月号 (No.9)

## 第11回佐見歌舞伎公演

校長 佐伯 好洋



11月25・26日に行われた第11回佐見歌舞伎大公演で、5・6年生が「白浪五人男」を発表しました。

一日目と二日目で、五人男と捕り手の役を交代して発表しました。化粧から衣装、刀などの小道具まで、すべて大人の役者と同じです。たくさんの観衆の前で、三味線と太夫の浄瑠璃の声にあわせながら、五人男は一人ずつ決め台詞とともに見栄を切ります。それに併せて会場からは子どもの名前を呼ぶ声がかかり、拍手をいただきます。

学習として歌舞伎を学ぶだけでなく、このような立派な舞台で役者として出演するという経験ができることが、子どもたちにとって大きな財産となっていくものであると思います。今回は、役者だけでなく「付け打ち」も子どもが行いました。これは初の試みでしたが、二日間ともとても上手にやりきりました。新たな一歩を踏み出した発表になりました。

運動会が終わった10月から総合的な学習の時間を使って練習してきた子どもたち。台詞の言い回しや振付は、市川福升師匠、下呂市白雲座の細江和彦さん、地元の熊崎由奈先生にご指導いただいています。福升師匠は、今年芸術文化の振興や文化財保護に尽力した個人や団体を表彰する文化庁の「地域文化功労者」文化財保護功労で表彰を受けられました。このように長年歌舞伎に取り組んでいらっしゃる方々から本物を学ぶことで、単なる体験ではなく伝統文化を学ぶ学習につながっていると感じています。また、この経験を起点として歌舞伎に対する関心を深め、小学校卒業後に寿式三番叟の踊り手や大人歌舞伎の役者になる子が出てきます。このことも、この活動の大きな成果の一つと考えています。しかし、この取組は学校だけでできているわけではありません。歌舞伎公演がない年の公民館まつりでの発表も含め、衣装や化粧、大道具から小道具まで、佐見歌舞伎実行委員会の皆様にはいつも多大なご支援をいただいています。この場を借りて感謝申し上げます。

